

第18回

様々な文化が 往来した北海道の 山の神の湖

最近ふと、初めて行った時の摩周湖を思い出した。その頃は「霧の摩周湖」といわれ、とても神秘的なイメージがあったけれど、行った日は真っ青な空で天気がよく霧が全くかかかっていなかった。「霧の晴れた摩周湖を見られるなんて、とてもラッキーなんだよ」と同行した人が話していた。ずいぶん前のことだけれど、あの美しい摩周ブルーは今も脳裏に焼き付いている。

後になって摩周湖の神秘さを紐解いてみた。霧のイメージはもちろん、湖のあの青さと深さ、流入流出する河川もなく、不思議な生物のマリモがいる。そして、何より周辺の雄大で美しい風景と様々なアイヌ伝説が、より神秘さを増幅させていたように思う。

数年前、仕事でアイヌ民族の話を絵本にした。制作時、協力していただいたアイヌ語の先生に、地域によってアイヌ語が違うこと、使う道具や楽器、文様、身につける装飾品なども違っていることを教えてもらい、地域ごと（コタンごと）に、様々な文化があったのだと知った。また、ある講演会で聞いたオホーツク人の話はとても興味深かったし、北海道立近代美術館で行われていた「アイヌの手仕事展」でも、その一端が大いに感じられた。長い時間をかけて交流を重ね、お互いの持つ文化が影響しあい、文化や歴史が編み込まれていくのだ。そう考えてみると北海道は秘められた文化や歴史がたくさんある地域なのだなと思った。

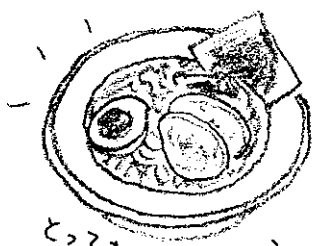
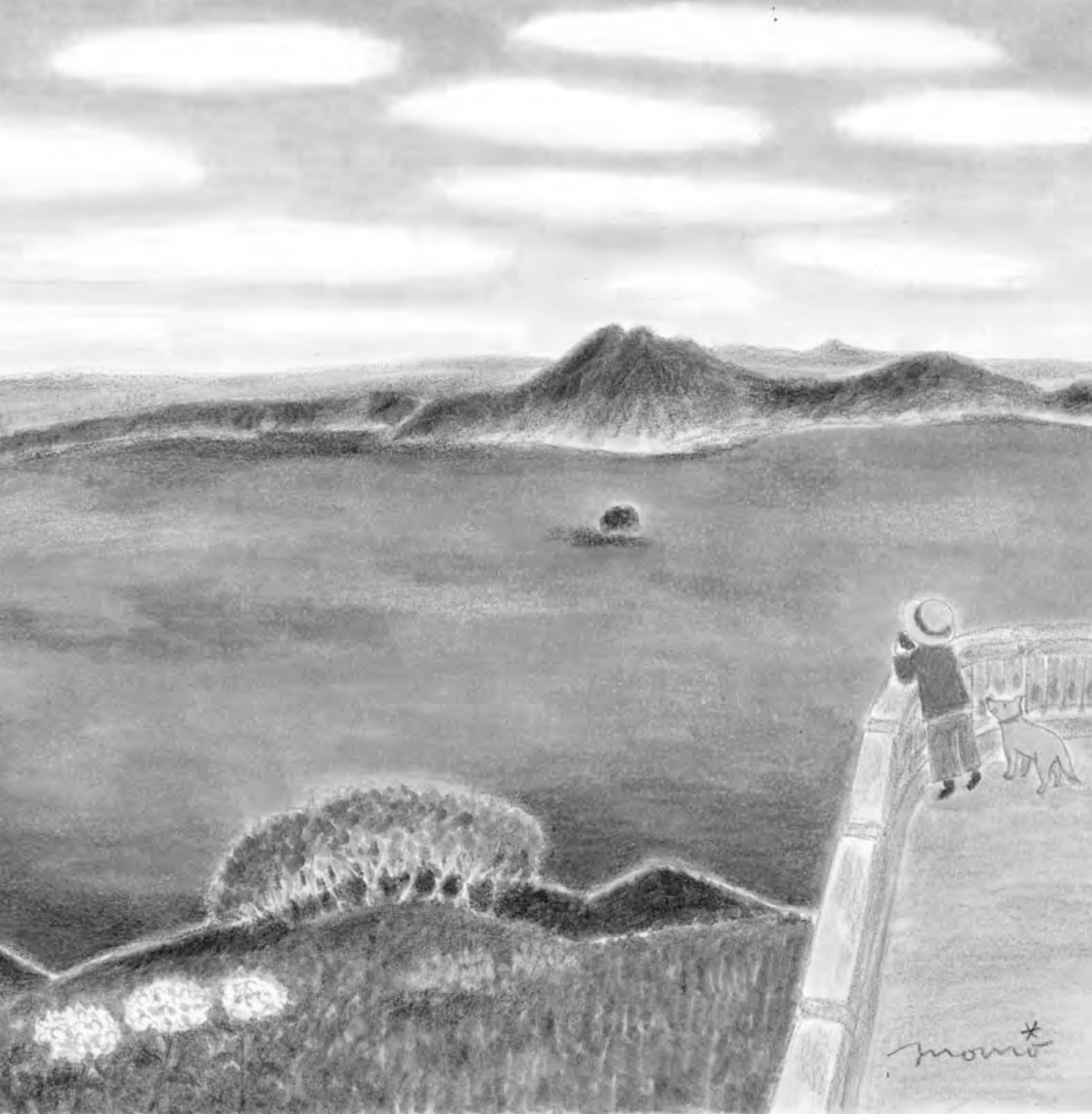
アイヌ語でキンタン・カムイ・トー（山の神の湖）と呼ばれる摩周湖。その昔、この周辺にはどんな文化があったのだろう。そんな目線でまた、摩周湖周辺を訪れたい。やっぱり摩周湖は神秘的な湖なのである。



すずき もも

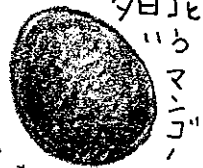
イラストレーター・絵本作家/スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ？ くだもの」（アリス館）がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。



とって人気の本店
弟子屋ラーメン
はじめて行くなら
「魚介いぼりしょうゆ
チャーシュー」がオススメ!

マンゴー農園の
ファーム・ヒーパールの
「摩周湖の



夕日ヒラマンゴ
「まっ赤でヒパールの
北のマンゴ」です!



お気に入りの器
もみつけてね!
摩周湖焼
「陶雅の里」



摩周湖のあじずの
人気ジェラートも
どうぞ!